

平成31年3月28日
筑波大学

働く人への心理支援開発研究センターを設立

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介、以下「筑波大学」）は、平成31年4月1日付けで、「働く人への心理支援開発研究センター」（センター長：岡田昌毅 筑波大学人間系教授）を設立します。同センターは、働く人への心理支援に関する研究を推進し、その成果を社会に還元することを目的としています。

現代社会はグローバル化、少子高齢化、働き方の多様化などによる多様で高いストレスが生じやすくなっていると考えられます。また、「働き方改革」などの急速な展開もあり、個人と組織の関係性が改めて問われています。「働く人への心理支援」や「支援人材の高度化」に対する社会的要請は高まっています。しかしながら、働く人に関する研究や支援は、様々な大学および民間企業などで個別に進んでいますが、研究と社会実装を一体化した産官学連携研究拠点の事例は国内にはありません。

本学人間総合科学研究科生涯発達専攻カウンセリングコースでは、カウンセリングや心理学領域を専門とする社会人研究者の育成と、社会における多様な現象を研究として発表することへの成果を上げてきました。そうした実績に基づいた最先端かつ多様な知見を基盤としながら、働く人及び働く人を支える家族や環境、さらに働くことに関し、「人は、いつでも、いつまでも発達できる」ことを理念として、ワンストップでのサービス提供拠点を形成することに至りました。

本センターの特徴は、生涯発達の多様な領域（社会への移行～中年～高齢者、妊産婦・出産・育児・介護等）、専門領域（家族・福祉、学校・教育、産業・社会等）、多様な研究領域（心理臨床、社会行動、キャリア発達、メンタルヘルス、惨事ストレス、アディクション等）をカバーする開発研究体制、および社会貢献体制を整備していることです。具体的には、「学術指導（心理統計を駆使した調査・分析、ツール開発等）」、「人材育成（働く人への心理支援に関する指導者養成、研修の開発・実施、教育効果検証、トレーニング環境の提供）」、「働く人への心理支援（相談室等）サービスの提供」を進めていきます。

期待される社会的な意義や効果は、以下の通りです。「働く」という切り口から人の生涯発達に対する貢献するとともに、東京都文京区にある東京キャンパスという地の利を活かし、多様な企業・団体や人々が集いやすい拠点を目指します。

【実践的研究】

真の社会ニーズに沿った、働く人への心理支援に関する実践的研究が促進され、働く人に対する、高品質の心理支援サービスの提供が実現される。

【産学連携】

本開発研究センター体制が整備されることにより、企業等に対する訴求力が格段に向上し、産学連携による外部資金獲得・拡大が実現される。

【人材育成】

心理支援者の質的向上、および指導者養成に関する機能強化が実現される。

【筑波大ブランド】

本開発研究センターの成果と社会人大学院教育の相乗効果により、筑波大学の社会貢献と人材育成に関するブランド力が更に向上する。

■「開発研究センター」

社会還元型の研究を推進しイノベーション創出を促進するために、外部資金等を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築する組織。期間は5年で延長もできるが、外部資金での運営が不可能になった時点で廃止となる。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献のミッションを担う新たな組織として平成27年7月1日付けで創設された。名称は「開発研究センター」とし、筑波大学国際産学連携本部のもとに開設される。

■問い合わせ先

働く人への心理支援開発研究センター長
人間系教授 岡田 昌毅(おかだ まさき)
Tel 03-3942-6847